

# 幼児教育史研究

第 2 号  
2007年

---

## 研究論文

- 近藤 幹生 明治中期の教育雑誌にみる就学年齢の議論 …………… ( 1 )  
— 『教育時論』の議論を中心に—
- 大沼 覚子 土川五郎における「遊戯」論の展開とその歴史的意義 …………… (15)

## シンポジウム記録

- 「日本における幼児教育史研究の到達点とその課題」 …………… (31)  
提案：日本幼児教育史研究の到達点と課題 (湯川 嘉津美)  
アメリカ幼児教育史研究の到達点と課題 (阿部 真美子)  
ドイツ語圏 (特にフレーベル) を対象とした  
幼児教育史研究の到達点と課題 (勝山 吉章)

## 書評

- 太田素子著『子宝と子返し』 八鍬 友広 …… (59)  
国吉 栄著『日本幼稚園史序説 関信三と近代日本の黎明』 宍戸 健夫 …… (62)  
永井理恵子著『近代日本幼稚園建築史研究』 高田 文子 …… (67)  
柿岡玲子著『明治後期幼稚園保育の展開過程』 太田 素子 …… (70)  
橋本宏子著『戦後保育所づくり運動史』 塩崎 美穂 …… (73)  
オムリ慶子著『イタリア幼児教育メソッドの歴史的変遷に  
関する研究』 鈴木 昌世 …… (77)  
村知稔三著『ロシア革命と保育の公共性』 中嶋 毅 …… (80)

- 会 則 …………… (83)  
編集規程・投稿要領・論文審査手続き …………… (85)
- 

幼児教育史学会